



木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2013.12.21 第 69 号

題字・佐々木正美
挿絵・竹蓋 伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部 ホームページ：http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内 TEL 043-227-8557



平成 25 年度 第 4 回 連続セミナー

『地域で暮らす』

山梨県 TEACCH プログラム研究会会長／保護者 中井百合子氏

中井氏は、発達障碍の長女 K さんの独り暮らしを通して支援つきの自立 (=必要な支援を受けながら自立した生活を送ること)を目指していました。それを支える環境設定と公的な支援体制について、中井家の例をご紹介いただきました。

環境設定について

何よりも「独り暮らしも悪くない」と思えるようにすることと、K さん自身の「親の指示は受けたくない」という思いから、独り暮らしのアパートには、自立して行動するための手がかりをたくさん用意していました。慣れ親しんだ実家で出来ていることを、独り暮らしのアパートで自立して行うためには、本人の判断の手がかりが沢山必要でした。その時々で本人が必要としている環境設定をすることが構造化であると考え、構造化のアイデアを生かし、K さんの特性に細かく配慮した工夫がされていました。アパート選びでは、一つの部屋をいろいろなことで使うのは難しいので、2LDK というゆとりのある間取りにしたそうです。その他にも、余分なものは置かず整然とした居室環境、安全面を徹底するための外出時と就寝前のチェックリスト、機能的で使いやすいようなダイニングテーブル等々…たくさんの取り組みを、画像で具体的にご紹介いただきました。もちろん、居間に飾ったハート型の時計やピンク色の小物等、ご本人のお気に入りも随所に取り入れられていました。

さらに、独り暮らしを始めて3年が経過した今では、生活に慣れて疎かになっていることもあり、再構造化が必要であるという点を、中井氏は力説されていました。本人は日々変化しているの、必要な支援も常に流動的です。その時々で本人に合った環境設定をするには、柔軟な発想で対応することが必要であるとのことでした。K さんには、「できる女性」と銘打って、仕事上や対人関係のマナーを確認するためのリスト等が有効であるというユニークな例をご紹介いただきました。

支援体制の広がりについて

独り暮らしでは、保護者である中井氏が定期的に訪問する以外にも、ヘルパーさんによる家事支援を受けているそうです。就労では、チャイムの意味や指示系統の理解等、仕事の手順以外の点で問題が発生することが多く、ジョブコーチを活用し、協働して解決を図っていました。余暇では、若者サポーターという県の制度や移動支援を利用して食事や買い物に出かけることが楽しみになっているとのことでした。就労前→就職活動中→現在と、生活の広がりとともに、K さんを支える支援機関や支援者が増えており、いろいろな支援を組み合わせで自立していることがよくわかります。一人の当事者を大勢の支援者が支える仕組みを作ること、本人に合わせた支援を組み立てるために協働することが、保護者も含めた支援者の役目であることが示唆されていました。

中井氏は、長女 K さんが幼児期に診断を受けたときに「予後は期待できない」と言われ、たいへんショックを受けたとお話されていました。そこで自分に出来ることを全てやってみようと考え直し、社会生活を送る上で必要な力を身につけることと、自分を好きになることで自己有能感に繋げるという幼少期からの子育ての目標を立てたそうです。社会生活を送る上で必要な力とは、「生活の中での楽しみを見つけること」、「身辺自立」、「選択すること」、「金銭の管理」、「お手伝いによって勤労性を身につけること」と、中井氏は捉えていました。幼少期からのこれらの力がベースとなって、今の K さんの自立した生活につながっているのだと思います。

安倍先生 おめでとうございます！



千葉TEACCHプログラム研究会のスーパーバイザーである安倍陽子先生が、11月22日(金)に市川市で開催された第39回千葉県特別支援教育振興大会で表彰されました。本研究会からは藤崎元代表に続いて2人目です。

特別支援教育振興大会は、1年おきに県内各地を回って開催されています。今年度は市川市で開催され、今年度の目的は、

『千葉県および市川地区の特別支援教育の現状と課題について、医療・福祉・教育・労働などの関係者相互の連携を深め地域社会の積極的な協力により、本教育の振興を図る。』となっています。

この大会で安倍先生が表彰されたのは、TEACCHプログラムを日本に紹介した先駆者の一人として、2002年の千葉TEACCHプログラム研究会設立当初から現在まで、スーパーバイザーとして研究会の発展に尽力し、毎年10回程度のセミナーを通して県内の自閉症・発達障害者の教育とその家族の支援に関して多大な貢献をされたことが認められたことと思います。

当日の安倍先生は、ラメの入ったすてきなジャケット姿、それにもましてすてきな笑顔で登壇され表彰を受けられました。会場に居合わせたT研スタッフもたいへんうれしく誇らしいひとときでした。

これからもスーパーバイザーとして、TEACCH研をよろしくお願ひします。



新しいスタッフ紹介

我がTEACCHプログラム研究会に新しいメンバーが仲間入りしました。

広報“森”をご覧の皆様、こんにちは。浦安市障がい者福祉センターの釜石・月崎です。私たちの取り組みを紹介させていただきます。

私たちの所属する浦安市障がい者福祉センターは、平成15年11月に在宅福祉の核となるように浦安市が設置し、社会福祉法人敬心福祉会がその運営（その後指定管理者）にあたりスタートいたしました。

平成25年4月より就労継続支援B型事業（定員50名）・生活介護事業（定員55名）・指定特定相談支援事業の3事業となりました。今年度、創立10周年を迎えています。

私たちは今職に携わるまで、畑違いの仕事に携わっていました。自閉症の人への知識や理解が乏しく、何のアプローチも出来ずに呆然とした日々を過ごしていました。自閉症の支援に携わり困難を抱えたこと、それが私たちのTEACCHプログラムとの出会いのきっかけとなりました。

自閉症の支援に対する課題を解決するという結果へ向けて、どのように解決をしていくのかという原因を考えました。課題の解決に対し、業界研究を行い支援者・教育者・保護者の取り組みを知りました。千葉県TEACCHプログラム研究会の連続セミナー・県内外の研修への参加・他事業所の見学・自閉症に関する書籍によるインプットと、現場でのアウトプットを繰り返し検証することを継続して行いました。この検証を通じ、自閉症支援の取り組みを学び支援へ生かしたいと考えています。

支援時、常に念頭に置いていることは、自閉症の人の特性を理解し個々人に合った支援方法を考えることです。その為にアセスメントに重点を置き、フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントの両面から日常の様子観察を行い支援へ取り組んでいます。このように取り組み、知り得た支援方法を次世代の後身へつなぐ役割が、私たちにも求められていると思います。

今後も、支援者・教育者・保護者の取り組みを学びまた協力し合って支援を行っていきたいと考えています。

私たちの取り組み紹介



・自閉症に関する参考書籍

・現場の様子（仕切りスケジュールイヤマフ等）



浦安市障がい者福祉センター



釜石 昂洋さん 月崎 慎吾さん



好評連載！ティータイム

千葉県TEACCHプログラム研究会 ディレクター 安倍 陽子



あれ程暑かった日々もすっかり過去のものとなり、師走に入り急に寒くなりましたね。今年も残すところ僅か、早くもクリスマスや年末を迎えようとしています。

始めに、私が今年度個人的に参加した学会や講演会から感じたことをちょっと。講師の先生方は、親御さんだったり、医師だったりしたのですが、ASDの人への支援の「構造化」について、やはり誤解が多く、本当にはその意味が理解されていないなあ…と残念に思うことが多かったです。学校でも、「地域は構造化されていないから、学校で構造化しても意味がない」と言われる先生もいらっしゃいますよね。いずれも、「構造化」の意味を非常に狭く、限定的に捉えていらっしゃる方が多いようです。ある講師の方も、「療育施設内では、部屋の構造化やスケジュールを使って療育しているけれど、それだけでは足りない。」などと話されていました。その支援を、日常生活や地域生活、遊びなどに生かしていくことこそ大切なのですが、その発想はないようでした。私たちの目指すところは、生活の中で、ASDの子どもや大人が、環境の意味を知り、見通しを持って、楽しく幸福に生きていけること。そのために、ASDの人たちの長所や興味関心を生かし、生活をわかりやすくしていくことですね。また、その人に合わせて、遊びや技能など新しいことを教えていくこともとても大切です。

ここで、今秋朝日新聞厚生文化事業団から出された「構造化」のDVDのご紹介を少し。このDVDは、「自閉症の人が求める支援」と題して、制作に1年以上、準備の期間を含めると2年以上の歳月を費やして、ようやく完成したものです。

制作スタッフは、ほぼ全国を渡って、通園から学校（小学校、中学校、高等部）、家庭、成人の施設や就労及び生活支援などの現場を見て歩き、多くの中から絞り込みました。本当に苦労が多いものでした。このDVDは、3巻から成り、第1巻は「基礎編 基礎からわかる構造化」第2巻は「実技編 構造化と再構造化のしかた」第3巻は「実践編 自立のための構造化」として、ASDの人への支援の基本である「構造化」について、基礎的な考え方から、その人の評価から構造化→再構造化の流れや、多くの実際の支援を学ぶことが出来ます。私も監修をさせていただきましたが、主に2巻の就学前の教室の構造化と再構造化のところを携わっています。

最後に、個人的なご報告を。なんと！私個人にとりまして、今年一番のサプライズでした。この11月22日の第39回千葉県特別支援教育振興大会、第21回市川市特別支援教育振興大会において、千葉県におけるTEACCHプログラム研究会の発展や自閉症・発達障害児教育の向上に対する表彰を受けました。千葉県TEACCHプログラム研究会は、親御さん、多くの教員や施設職員、心理士、千葉県発達支援センターの職員などのスタッフの力に支えられ、ここまでやってきました。この表彰は、研究会を支えるみんなに向けられたものだと思います。スタッフ、そして参加されている皆さまにも心から感謝を申し上げます。

これからも、益々の発展を目指して、精進していきたいと思いますので、皆様、どうぞよろしくお願い致します。

それでは、どうぞ良いお年をお迎え下さい。また、来年2月にお目にかかりましょう！

平成25年度 TEACCHプログラム研究会 総会および 第6回連続セミナーのお知らせ

期日：平成26年2月15日（土） 13:30～16:30

場所：きぼ一る内 13階

内容：家庭・学校・施設の実践報告

講師：保護者・教員・施設職員

〈編集後記〉今回の広報は、嬉しい報告をたくさん載せることができました。スタッフ一同、さらに気合いが入ります。今後とも、周りにいる自閉症の方々のためにできることから一つずつ少しずつ実践していきたいものです。（島尾）